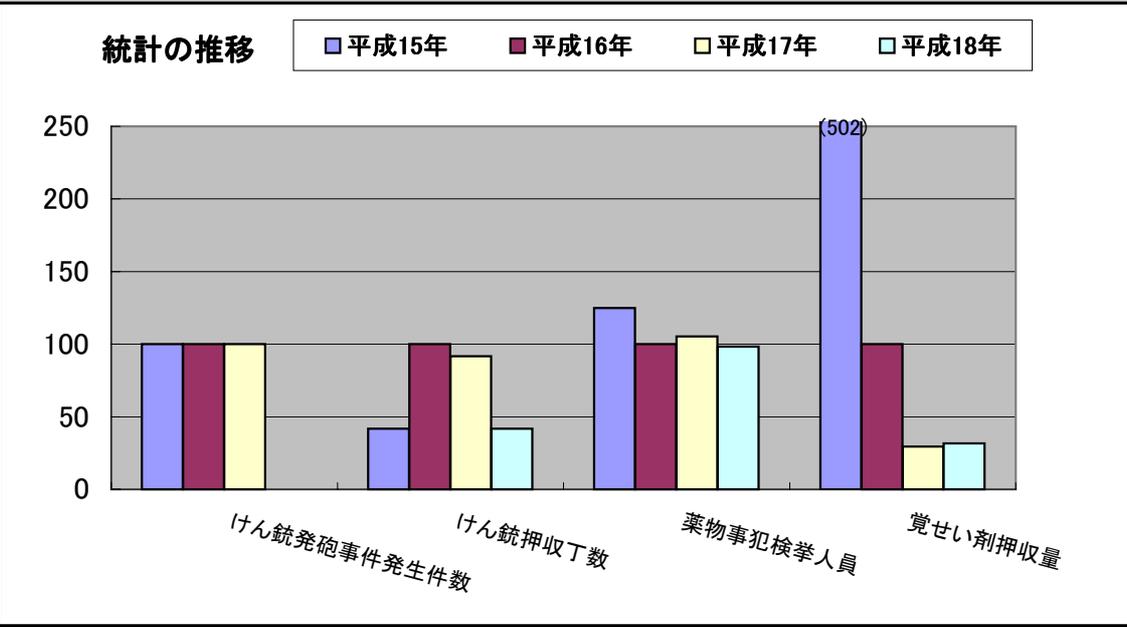


<b>業務名</b>	<b>銃器・薬物犯罪対策の推進</b>
------------	---------------------

**業務に関する統計**

項 目	統 計 の 推 移				単 位
	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	
けん銃発砲事件発生件数	2	2	2	0	件
けん銃押収丁数	5	12	11	5	丁
薬物事犯検挙人員	210	168	177	165	人
覚せい剤押収量	632	126	37	40	g



< グラフは、平成16年を100とする指数で表した。 >

**業務の主なコスト**

	事 業 名	平成18年度事業費(千円)	平成19年度事業費(千円)
1	銃器総合対策強化費	1,693	1,834
2	薬物事犯対策費	192	179
3			
4			
5			
6			
7			
8			
合 計		1,885	2,013

## 平成18年の取組み

けん銃発砲事件など、銃器使用事犯に対する県民の不安を解消するため、

- ・ けん銃隠匿事犯の摘発強化
- ・ 税関、海上保安庁等との連携による水際対策の強化
- ・ 県民の理解と協力を確保するための積極的な広報活動

等の各種対策を推進した結果、暴力団員等からけん銃5丁（前年比 - 6丁）を押収した。

薬物犯罪組織の壊滅、「第三次覚せい剤乱用期」の早期終息を目指し、

- ・ 暴力団幹部らによる覚せい剤密売事件の検挙
- ・ 末端乱用者の徹底検挙
- ・ 税関、海上保安庁等との連携による水際対策の強化

等の各種対策を推進した結果、165人（前年比 - 12人）を検挙するとともに、覚せい剤40g（前年比 + 2g）を押収した。

## 課題と平成19年の取組み

銃器・薬物犯罪は、組織的に敢行されることが多く、国際化、広域化が一層進み、犯行の手段・方法の巧妙化が顕著になっていることから、引き続き、組織犯罪に係る情報を一元的に管理して戦略的な組織犯罪対策を推進し、

- ・ けん銃隠匿事犯の摘発強化
- ・ 税関、海上保安庁等他の取締機関との連携による水際対策の強化
- ・ 末端乱用者の徹底検挙
- ・ 学校、職場等に対する積極的な広報啓発活動による薬物乱用防止啓発活動

等の各種対策を推進し、県民の安全と安心を確保する。